

「知事とのフレッシュトーク」(令和3年10月1日(金) 青森県立青森南高等学校) 概要

知事が高校生の皆さんとこれからの青森県や自分たちの将来に関して意見交換を行う「知事とのフレッシュトーク」について、青森県立青森南高等学校での実施概要をお知らせします。

生徒による学校全体紹介の後、代表生徒と知事が意見交換を行いました。

(参加：2学年生徒239名 ただし、司会、発言及び学校紹介の生徒以外は各教室からのリモート参加)



(発言生徒1、2年男子)

私はバドミントン部に所属しています。将来はまだ明確に決めてはいませんが、プログラミングなどのIT関係の仕事に興味を持っています。

授業の中で、持続可能な開発目標をテーマに掲げた探求学習を行った際、私たちのグループは、SDGsの17ある目標のうち、「ジェンダー平等を実現しよう」に着目しました。いろいろ調べていく中で、日本は随分男女格差が解消されてきてはいるものの、まだ



まだ発展途中であることや、世界にはアイスランドやフィンランドのように男女格差指数が非常に低い国々があり、それらの国ではクオータ制度を取り入れていることを知りました。クオータ制とは、例えば政治等において、議員等の候補者の一定数を女性に割り当てるという制度です。

そこで男女格差がまだまだ埋まらない日本で、先陣を切って、まずは青森からクオータ制度の導入に取り組んでいくというのはいかがでしょうか。会社や自治体などにおいて、女性が多く採用されることでさまざまな面で不公平感が解消され、価値観の多様性が生まれることでイノベーションが起きるのではないかと考えました。例えば、男女共同を管轄する自治体の部署などの職員の採用に女性登用率を明示し、この制度を設けてはいかがでしょうか。現在青森県議会は女性議員の割合が約6.4%に留まっていて、女性視点の意見が反映されにくい可能性があります。将来的に県の取組が成功すれば政治にもこの制度が導入され、世界の推進国並みに男女共同参画の方策がとられていくのではないのでしょうか。

(知事)

今を去ること18年前、君たちが生まれた頃に男女共同参画のフォーラムやシンポジウムを開催した際は「何でそんなことをしゃべっている。」、「そんなことはいらぬ。」といった意見もあり、すごく寂しい思いをしたことを急に思い出しました。

その後、県庁での女性の採用が4割くらいで、日本でトップになったこともあります。今は3割くらいですが、意識をして取り組んでいます。時間がかかったけれど、そういうことが社会で言葉として本当に出てくるようになった。それだけでも自分はうれしく思っています。

(青少年・男女共同参画課)

日本のジェンダーギャップ指数は世界の中で120位です。他の国と比べてずっと下のところにあり、特に政治の分野での女性の比率が低いと言われています。

青森県では、これまで平成12年・13年頃から、様々な施策に取り組んできましたが、依然としてまだ男女格差がいろんな分野で残っています。県議会やPTA会長の比率など、日本平均よりも下位になっています。

こういった格差が依然として残っているは何故なのかというと、人々の心の中に、小さい頃から長年にわたって作り上げられてきた偏見や無意識の思い込みなど、難しい言葉で言うと固定的な性別役割分担意識といって、「男なのだから強くなれ」とか、「女なのだからおしとやかになれ」とか、そういうことを言ってしまうたり、思ってしまうりする、それがよくないのです。そういう考えがどうしても人の心の中に残っていることが、今の低い位置にいる原因なのではないかなと思われれます。

今、発言のありましたクオータ制度については、格差がある分野において、積極的に、例えば女性の人数を割り当てるなどして格差を是正しようという制度で、効果的な制度の一つかと思えます。県の審議会でも、一部、男女の比率を決めて委員を登用しているものもあります。自治体職員の採用の話もありましたが、県の採用者については、直近で33.6%と、まだ半分には届いていませんが、女性職員の割合は、この5年間で段々と上がってきています。それから県の管理職では、5.7%と、すごく小さい数字ですが、5年間をかけて改善してきています。

少し良い話もあります。帝国データバンクで発表しているデータで、全国女性社長分析調査というのがある、青森県は女性社長の比率が10.9%と、全国第3位で、女性社長が多い県です。

(知事)

一昨年まではずっと1位でしたが、追い抜かれました。

(青少年・男女共同参画課)

県では、男女共同参画推進ということで、農林分野の女性、建設分野の女性の活躍といったことにも取り組んでいます。例えば、「あおもりなでしこ」といった県内の企業で働いている女性職員のチームがあり、大学生や高校生の要望に応じて、女子生徒と一緒に就職に向けた座談会をしています。今年もまだ枠が残っているので、もしよろしければ、活用いただければと思います。

男女共同参画社会というのは誰もが、皆さん一人ひとりが、自分の意思と選択に基づいて自分らしく生きる、そういった社会を目指していますので、皆さんもよろしくお願いします。

(議会事務局)

青森県議会議員選挙は4年に1回ありますが、最近の県議会議員選挙の候補者の状況をみますと、議員定数48に対して立候補された方が60人、その中で女性の候補者は4名で、非常に少ない状況でした。4年前の2015年のときは女性の候補者が7名でした。

青森県議会の活動はいろいろありますが、そのなかで県民の方々の要望や意見を県に届けるための請願・陳情制度があります。今回、提案のありましたクオータ制度導入についても、こういった請願とか陳情という制度によって、議会で検討してもらう方法があります。この請願・陳情を議会で審議し、仮に採択された場合は、実際に議会でクオータ制導入を実現するための議員定数等に関する条令の改正、もしくは全く新しい条令を制定する必要があります。具体的にいつから実施するのか、県内16選挙区の中で、例えば青森市選挙区は10名なので男女を同数にすることが可能であるが、三沢市選挙区は1名であり、そういった場合に男女数をどう振り分けるのかなど、いろいろと検討することがあるかと思います。そのため、議会の中で議員定数等検討委員会を設置して、条文等を検討して、委員会で了解が得られれば最終的に議員提案という形で議会に提出されることとなります。

なお、国においては、政治分野における男女共同参画を効果的かつ積極的に推進して、男女が共同して参画する民主政治の発展に寄与しようということを目的とした法律を平成30年度に施行しております。今年、家庭生活との両立支援のための体制整備のために法律が一部改正されました。それに伴いまして青森県議会でも会議規則を改定して、議会欠席の理由として育児とか介護を新たに追加し、それから出産のために欠席できる期間、今まではまったくありませんでしたが、明記するなどして男女共同参画の推進に対応しています。



(知事)

青森県でも経済、働く場において女性が前向きになっています。女性の社長も多いし、女性の管理職も全国で5位となっています。管理職が多いということは、将来社長になったりトップになったりと、そういうことが起きるし、それから青森県では、女性が働きやすい場所にするため「あおりなでしこ」というチームが経済や仕事から男女共同参画について張り

切ってやっています。

また、創業・起業では、ここ数年、毎年100名を超える方が仕事を起こしています。その中の4割が、実は女性の創業・起業家で、すごく経済を支えています。経済を握ることは、いろんな発言や社会的な立場が強くなりますので、大変期待しています。

理工科系について県庁では、女性のエンジニアが増えていて、「ドボジョきらきら推進チーム」というのを作って、先輩が後輩に対して「青森に来たらダムを作れますよ」とか「橋架けられますよ」と言うことで、女性の技術者も増えています。林業でも「林業女子会」というのができたり、民間でも広域建設技術ネットワークができています。

その基本となっているのが、女性の働きやすさということを青森県では丁寧にやってきました。その結果、育児をしている女性の有業率は、全国9位、女性全体の有業率と育児をしている女性の有業率の差は、全国1位と、育児しながらちゃんと働くことができ、経済を握るということがどんどん始まってきているので、これからについても自分としては期待をしています。

将来の夢がプログラミングなどのIT関係の仕事ということですが、目指すためには何が大事ですか。

(発言生徒1)

勉強です。

(知事)

ゲームは好きですか。

(発言生徒1)

割と好きです。

(知事)

どういふプログラムを組んでいくかということを感じを磨くことが大事です。坂村健さんというユビキタスやI o Tに関する日本のトップの方がいますが、「青森の人財は面白い」とおっしゃっていました。この仕事は、青森にいなくてもできますが、青森のことを忘れないでください。よろしくお願いします。



(発言生徒2、2年女子)

将来の夢は、明確ではないのですが、今はブライダル関連に興味があります。

私たちは「海の豊かさを守ろう」の目標について調べました。2050年には、海の生物の量よりも、ゴミの方が多くなるという記事を読んで、とても驚きました。青森県は魚貝の宝庫です。海の富を守っていくためにも早急に解決すべき問題だと思います。

海に流れ着くプラスチックゴミが出る大きな理由の一つとして、過剰包装の文化があげられます。そこには、日本人ならではの礼儀や美しさ、そして清潔感などの表れが大きいようです。しかし、最近では、環境に関心を持つ人も増えてきていますし、私たち高校生の中にも、包装が過剰すぎると感じる人は多いように感じています。ですから、レジ袋を有料化したように、過剰包装の文化も弱めるべきではないかと考えました。そのために、できることとして2つ考えました。

例えば、青森県産の商品などは、可能な限り過剰包装の削減を促し、「この商品はプラスチックゴミ削減のため、包装を減らした製品です。プラスチックゴミを減らそう!」といったラベルを作成して広報活動をするとか、私が驚きをもったように、海洋ゴミの悪影響について、多くの人に知ってもらおう機会を作るために、県独自のPR動画を作成してCMで流すなど、そういったアイデアを県民から募集して実践してみるのはいかがでしょうか。

ですが、一番大切なことは、一人ひとりが環境の大切さに気づくことです。環境問題は、興味を持っている人もたくさんいます。将来、フェアトレードやデポジット制度などが当たり前になるかもしれません。その時に、積極的に活動し、人々を導くリーダーとなる人を積極的に育成していくことが必要なのではないかと思いました。ご意見をお聞かせください。

(知事)

私たちが海の問題について、危険な状態にならないように取り組んでいます。青森県の海岸線は、約800キロあって、海に囲まれているから、海の生業の水産関係の方も多いです。見かけではプラスチックが入っていないように見える魚が、ものすごく細かく分解されたのが海の中に染み込んでいて、それを飲み込んでしまったりしています。水族館に行った際に、カメやクジラが「何で死んだんだろう」ということで、お腹を開いたらプラスチックがいっぱい詰まっていて、キラキラ光っているので、クラゲだなと思って食べてしまったようです。そういったことが起きています。



青森県では、かなり早い時期から、レジ袋を無くそうということやプラスチックの分別をしようなど、地道に取り組んでいます。プラスチック問題というのは、将来まで長くやっていかなければいけないし、過剰包装問題は、お中元やお歳暮も簡易な包装に変わってきていますが、お互いがそういうことでいいんだということが、資源をムダにしない文化となって広がっていくことが大事だと思っています。

青森県では、かなり早い時期から、レジ袋を無くそうということやプラスチックの分別をしようなど、地道に取り組んでいます。プラスチック問題というのは、将来まで長くやっていかなければいけないし、過剰包装問題は、お中元やお歳暮も簡易な包装に変わってきていますが、お互いがそういうことでいいんだということが、資源をムダにしない文化となって広がっていくことが大事だと思っています。

(環境政策課)

はじめに、青森県は魚貝の宝庫だというお話がありました。県では、青森県のいろんなトップデータを集めたピカイチデータという冊子を作っていて、これを見ますと、いかがが1位、ほたてが2位、クロマグロが2位ということで、漁獲量や生産量からも青森県は魚貝の宝庫であるということが言えます。

このように海は多くの恵みを与えてくれる大事な存在ですが、その海にどのくらいのプラごみが流れているかと言いますと、世界全体では、年間約500万から1,300万トンが海に流れ込んでいます。どのくらいの量かと言うと、大体日本で生産されているプラスチックの全体の量に相当するような量が世界中で流れ込んでいるということです。

世界では中国や東南アジアからの流出が多いですが、日本からも年間2万トンから6万トン流れ込んでいます。2050年には海のプラごみの量が、海に住む魚の量を上回ってしまうという試算もあります。そうすると漁業や観光などに、様々な影響がありますので、世界中で問題になっています。

日本からのプラごみの流出量は、世界の中では順位的には下の方ですが、1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量でいけば世界2位ということで、そういう不名誉な指摘もあります。県では昨年度、深浦町と東通村の海岸で漂着ゴミの調査を実施しました。そのデータを見ますと、いろんな自然物や人工物がありますが、人工物の個数ベースでいくと、いずれの海岸でも約9割プラごみが占めていました。こうした漂着ごみについては、市町村と協力して回収・処理をやっていきます。ここ数年のデータでは、約550トン前後を回収・処理して、費用もたくさんかかっています。

このような海のプラごみを減らすために、どうすればいいかということですが、ポイ捨てをしないということはもちろんですが、やはり過剰包装や容器包装などの使い捨てのプラスチックをなるべく減らすことが重要です。このため、県では昨年5月に「あおりプラごみゼロ宣言」を行いまして、7つの行動ということで3Rの取組や清掃活動への参加など、その実践を県民の皆さんに呼

びかけました。この他、県では海のプラごみの現状や海のプラごみを減らすためにどのような行動をとるべきかを周知するために、りんご娘さんや漁師さんの御協力によるポスターを作ったり、テレビCMや青い森鉄道の車体広告なども活用して発信しています。

リーダー育成のお話がありましたが、県内でも本当にたくさんの方がボランティアでごみの回収をやっています。今年の6月の県民だよりでは「ブルーピース」という団体の活動を紹介させていただきました。彼らは夏泊半島の大島の清掃活動に取り組んでいるのですが、できることを自分たちでしっかりと考えて、行動をするという方々です。こういった方々の取組を広報紙などで紹介することもリーダーの育成につながるのではないかと考えています。

昨年、国では全国的にレジ袋の有料化をスタートしましたが、県では平成20年度から県内のスーパーの協力を得て取り組んでいます。昨年度までに削減したレジ袋を積み重ねますと、岩木山23個分にもなります。これは県民の皆さん、一人ひとりの御協力、実践の成果だと思っています。プラごみを減らすためには、メーカーや小売店でも様々な努力をしていますが、やはり私たち一人ひとりが「自分ごと」として捉えて、行動することが重要だと思っています。県でも、今日、皆さんの意見などを参考にしながらプラごみの問題の解決に向けて努力していきますので、ぜひ皆さんもできることから始めてもらえればと思います。

(環境政策課)

提案がありましたリーダーの積極的な育成に関する県の取組を紹介します。県では、近年、世界的に注目されている持続可能な開発目標SDGsのほかに、脱炭素という言葉聞いたことがあると思いますが、地球温暖化に影響してくる二酸化炭素を削減するための取組です、そういった視点を持ちながら環境問題などの地域課題の解決につなげていくという人財育成が重要と考えています。そのため、青森大学、弘前大学及び八戸工業大学の先生方の御協力をいただきながら、大学生を対象とした地域課題解決型授業等による環境人財の育成に取り組んでいます。3大学の取組は様々ですが、例えば、大学の一般教養科目の中で、環境教育をテーマに取り入れていただき、課題解決に向けた演習、ワークショップを実施いただいています。また、今年度、青森大学では青森山田高校と、弘前大学では弘前中央高校と一緒に、高等学校の総合的な探求の時間に高大連携授業を行っていただくなど、人財の裾野を広げる取組も行われています。なお、この取組は各大学で終わることのないように、取組結果の報告や意見交換の場を設けたいと思っています。誰でも参加できますので、皆さんにも御案内いたします。

(知事)

ちょうど皆さんが小学生の頃、雑紙コンテストというのをやりました。やっていないクラスもありましたが、すごく協力をしてくれて、いろんな紙ごみもムダにしないでやろうということ、県下全部の小学校で夏休みにやるようになっていました。その結果として、最下位だった青森県が、43位とまだまだ低いですが、すごく減らしてもらいました。それからリサイクル率も上がってきました。だからどの分野でも、地球環境は本気で考える時が来ていて、まずは我々も雑紙、紙はリサイクルできるのでやってきました。今はプラスチック問題についても本気でやっています。

将来の夢がブライダル関連ということですが、どういった結婚式とにしたいとか、何かありますか。

(発言生徒2)

結婚する人の要望に応じて、幸せいっぱいの顔が見たいです。そういう結婚式ができればいいです。

(知事)

いいですね。結婚については、県の課題でもあります。個人それぞれの自由に関わることだから無理にとは言えませんが、みんながハッピーになるブライダルをお願いします。



(発言生徒3、2年男子)



将来の夢は理学療法士になることです。世界では、主に先進国ですが、過剰に生産され余ってしまった食料が廃棄される「食品ロス」が問題となっています。例えば、年間の世界穀物生産量を、世界の総人口で割ると、一人が1年に必要な食物量の2倍を超える計算になってしまいます。この状況が続くと、地球の資源が枯渇してしまいます。

そこで、県内の事業所に質問をして、食品ロスに関する取組について回答をいただきました。例えば、福祉施設では、食が細い利用者が多いため、栄養を考えた献立でも全量を摂取できず廃棄量が多くなってしまいますので、粉末状のカルシウムや食物繊維を汁物に溶かして提供するという工夫がなされているそうです。他にも、スーパーの総菜売り場では、販売実績から売上げを予測し、過剰な商品化を避けたり、客数を見て値引きをしたり、家庭で廃棄が予想される魚の頭などを事前に料理し、提供をするという工夫がなされているそうです。バイキングやビュッフェなど、食べる自由や食べる楽しみが尊重されている先進国において、食を規制することはなかなか難しいことだと思いますが、食品ロスを改善することは環境破壊を軽減し、限りある資源を長く使うことにつながります。総合して考えると、フードロスを減らすには、あくまでもこのことを啓発する取組が最も重要だと考えています。

そこで、青森県で行っている、または行う予定の対策などがあれば教えていただきたいと思います。

(知事)

すごく大事なことに気がついてくれてうれしいです。地球の資源には絶対に限りがあるし、食料の生産も人口が爆発してきているから、限りがある中で、どうやって生きていくための食べ物を皆が食べられるようにするかって大きなテーマだと思っています。

日本はすごく豊かになったと思っています。自分が子どもの頃、上北郡の百石町では鮭が獲れる。だから冬は鮭ばかりだった。鮭というと贅沢だと思うかもしれないけど、そういう時代でした。今は何でもどこでもあって、食べ物が豊か過ぎて有難いという感じがない時代になって、こんなに変わったんだなと思っています。そういう意味では食べ物が潤沢ないい国になったと思いますが、地球規模で考えた時に大問題だと思うし、そのことに気がついて発言をしてくれたことを感謝します。ありがとう。

(環境政策課)

まず「食品ロス」の意味ですが、本来、食べられるにもかかわらず捨てられる食品ということで、この状況ですけれども、農林水産省の資料によりますと、日本の食品ロスが約600万トンということで、1人1日当たりご飯の茶碗1杯分と言われております。世界全体では、人間用のために生産された食料の3分の1、約13億トンが廃棄されているということで、実にもったいないという状況にあります。

食品ロスの問題というのは2つの側面がありまして、1つは環境問題で、食料生産にもたくさんのエネルギーが使われています。食品を廃棄すると、その焼却によって温室効果ガスがたくさん出てしまうので、地球温暖化問題、それからごみ減量の問題からも重要な課題です。

もう1つは食料問題という側面です。世界人口は77億人、その中で9人に1人が栄養不足と言われております。日本の食料自給率は37%で、海外からの輸入に大きく依存しております。世界人口は2100年で約110億人でピークになるという予想があります。それまではずっと増え続けますので、世界全体の食料事情から見ても食品ロスの削減が非常に重要であるということです。

ちなみに「ピカイチデータ数字で読む青森県2020」で、青森県の食料自給率は120%で、全国第4位ということで、青森県だけで見ると非常に恵まれた状況にあります。

県内の食品ロスの状況は、青森県内の家庭から出るものは29,000トンになります。1人当たり、全国値と同じぐらいの量です。食品関連事業者から排出されている量は56,000トンで、身近な外食産業、小売業から大体半分ぐらい発生しています。その発生要因は、外食産業では61%が食べ残し、それから34%が消費・賞味期限切れです。小売業では94%、ほとんどが期限切れとなっています。

こういった現状を改善するために、今年から県の新たな取組として「てまえどり」といって、陳列棚の手前にある期限の短い商品をすすんで購入しましょうという取組をしています。今年の4月にはセブン・イレブンの御協力を得て、県庁近くのコンビニでチラシを配るなどのPR活動を行いました。それからセブン・イレブンでは、県内全店舗で「エッコー」というキャラクターを使ったポップをわざわざ作ってPRをしてくれています。こういった県の取組も参考として、6月からは全国のコンビニ4社で、てまえどり、緑色のこういったポップ表示もやるようになりました。10月は食品ロス削減月間です。今月15日から県内のスーパーと一緒に、てまえどりキャンペーンということで、手前の商品に貼ってあるシールを応募すると県産品が当たるキャンペーンをユニバーズさん、県民生協さん、コープあおもりさんとやる予定です。その他に3つの「きる」、食材は「使いきる」、それから外食などで注文し過ぎないようにして「食べきる」といった取組もありますので、皆さんも是非、自分ができることを考えて取り組んでいただければと思います。

(食の安全・安心推進課)

県では、一人で食べるよりバランスのとれた食事をする頻度が高い、誰かと食事をする「共食」を推進していて、「みんなの食堂」に規格外や余剰品といった未利用農林水産物を提供する体制を作り、支援しています。

「みんなの食堂」とはどういうものかと言いますと、子ども食堂や地域食堂などと呼ばれている地域の人を対象に、定期的は無償又は低価格で食事を提供する食堂のことです。参加者が食事の準備をしたり、様々な体験学習の機会等の提供を行ったりしているところもあります。

ただ、現状として、こういった食堂は主にボランティア団体が運営をしていて、運営資金の確保に非常に苦勞をしている実態です。また一方で、農林水産業の方では生産・販売の過程で、食べる

のに問題ないのに形が悪くて出荷ができない、あるいは売れ残ってしまったものが発生しています。そこで、これらの食材の情報を県が集めて、ホームページにみんなの食堂の情報提供をアップして、両者の食材のマッチングを行っています。これは昨年度からネットワークを準備して、今年から運用しています。これによってみんなの食堂の支援以外に地産地消や食品ロスの削減にもつながっていると考えています。これまでに10件のマッチングが成立しています。内容としては冷凍食品等の加工品、それから野菜などがみんなの食堂に提供されています。

今後は、こういった取組によってみんなの食堂の安定的な運営、充実した食生活の実践、食の大切さの再確認につながるほか、未利用農林水産物の有効活用、それから食品ロスの削減、地産地消の推進、地場産品のアピールの機会となることが期待されると考えています。

(知事)

青森県の自給率は、カロリーベースで言うと120%ですが、果物だと600%、魚・野菜は300%だから、農家や漁師にお金で返ってくるよう全国に売っているの、そういう意味では買うなというのはすごく言いにくい話ですが、我々食料生産地から言えば、経済を回すだけでなく、本当に皆がちゃんといろんなものが食べられるようになるためには、余分な買い物をしない、捨てるような量は買わない、飽食の話もありましたが、今日の料理、今週はこういうのを食べようとか、ちゃんと考えて買ってくればすごくロスが減ると思っています。それと栄養バランスということも考えた場合に食べ過ぎということがあります。

将来の夢が理学療法士ということですが、どうして目指すのですか。

(発言生徒3)

中学校の頃、部活でケガをした時にそういった職業があることを知って、体の構造とか面白いなと思って職にしたいなと思いました。

(知事)

今、ものすごく求められている仕事です。コロナが始まってから、フレイルといった筋肉が固くなったりする状態が増えています。動けなくなる人が増えると本人も辛いし、家族も辛い、社会も辛いので、理学療法士の皆さんには期待をしています。



(発言生徒4、2年女子)



私は放送部に所属しています。まだ明確に将来を決めていませんが、「様々な地域の異文化」に興味を持っていて、大学進学に向けて勉強に励んでいます。

SDGsをテーマにした探求学習をした時に、私たちのグループは、「青森の街おこし」というテーマで、地方都市の持続可能性について調べ、人口の増加が課題であることや、そのために本県も様々な方策をとっていることが分かりました。

本県には、自然が豊富、生活コストが低い、ワークライフバランスを充実させやすい環境、通勤ストレスが少ない、待機児童が少ないなど、持続可能な都市としての強みがたくさんあります。また、魅力ある郷土料理や、世界にも誇れる観光資源もたくさんあり、最近では縄文遺跡群の世界遺産登録で話題性も高いです。

そこで、たくさんの人に青森に興味を持ってもらうために、みんなが使っている SNS を利用して広報することを提案します。そのために、インフルエンサーと呼ばれる方たちと連携してはいかがでしょうか。YouTuber、インタグラマー、Tiktoker など様々な方が活躍していて、その中には県出身者や関係者がいるかもしれません。SNS は国内だけでなく海外へも強い宣伝効果を生むと思います。アフターコロナを見据え、再度外国からのインバウンドを受け入れるために、現在のこのコロナ禍はそういった宣伝をするチャンスかもしれません。

さらに、国内で過疎化が進む東北地方や中国・四国地方などの高校生と青森県の高校生を交換して、相互にホームステイを行う国内留学により、お互いの魅力を宣伝しあうことで観光などにつながればと思います。私たちの探求学習に、ご意見、よろしくお願いします。

(知事)

青森のいいところ、すごく知っていてくれてうれしく思いました。感謝します。それから SNS という言葉が出る前から、青森県ではまるごとあおもり情報発信チームという部署が、メディアを使っのキャンペーンをやってきました。今から、そういったところを含めて説明します。それから国内だけではなくて台湾や海外でもすごくやっていました。そういったことも続けていきたいと思っています。



(観光企画課)

観光企画課まるごとあおもり情報発信グループでは、テレビや雑誌などのマスメディアを活用した情報発信に加えまして、近年、利用者が急速に増えている SNS を活用した本県の魅力発信に取り組んでいます。

まるごとあおもりの SNS のフォロワーは、令和 3 年 3 月末現在で、Twitter、Instagram、Facebook を合わせて 5 万人、今の 9 月末では 6 万人近くになっています。投稿した 5 8 4 件の情報は、延べ 4 千万人の SNS の利用者に届いています。特に今年 2 月に Twitter で発信した、インターネット認証システムにちなんだ「青森版、私はロボットではありません。画像選択の画像です。」については、投稿直後から大量のリツイートがあり、最終的には 1 千 7 百万人以上の利用者にこの情報が届いたほか、yahoo ニュースやテレビ、新聞などのマスメディアにも「りんご王国らしいユニークな内容」だということで、たくさん取り上げていただきました。

昨年、コロナの影響で祭りが相次いで中止になった際には、ドローンで撮影した弘前公園の満開の桜だとか五所川原立佞武多を SNS や YouTube ライブで国内外に発信しました。そうしたところ 1 0 万人以上の利用者に情報が届きました。また今年 7 月に世界遺産に登録された縄文遺跡群については、キーマカレーとポテトサラダを使った土偶のキャラ弁、りんご娘による土偶のけん玉挑戦企画、本物の猫やレゴブロックを土偶に見立てた企画など、こういった企画を次から次へとやっていって、幅広い世代や志向の方々に興味を持ってもらえるような発信に努めています。

さらに今、コロナ禍で県をまたぐ移動が制限されてきた間、有名人やメディア関係者などのインフルエンサーに対して、本県の最新の情報などを定期的に提供をしてきました。縄文遺跡群が世界遺産に登録された7月には、青森県を応援してくれている栗原心平さんをはじめとしたインフルエンサーに対して、遮光器土偶の容器に入ったお酒だとか縄文関係の資料を提供したところ、SNSで発信や感謝のメッセージをたくさんいただきました。

また ZOOM や YouTube ライブ上で、青森県全域の夏祭りを楽しむことができる「オンライン青森夏まつり」のオープニングセレモニーに、昨年に引き続いて知事にも出演をしていただきまして、縄文や県産品のPRを行うとともに、台湾やブラジルからの参加した人たちと交流をしたところです。県では、海外メディアなどの関係者とのネットワークの構築にも力を入れていまして、青森県に取材に来てくれた外国人ライターが青森県のことをSNSでたくさん拡散してくれています。こういったことを、いろんな方面でSNSの取組をしています。

最後になりますが、今回、御提案いただきました「過疎化が進んでいる地方の高校生と互いの魅力を宣伝しあう」といったことについては、自分が暮らしている地域の魅力というのが、当たり前すぎてなかなか気づきにくいものですが、他の地域の高校生との交流を通じて、違った角度から若い世代の感性で魅力を発信しあえるというのはすごく効果的な方法だと思いますので、是非、これからも頑張ってくださいと思います。

(知事)



青森県では早い時期からメディアを使ったPRをやってきました。広告費を出せない分、職員が青森のいろんな面白いことをテレビ局や新聞社、雑誌社に持ち込んで取り上げてもらうといったことをやってきました。今年度も様々なことに取り組んでいますが、我々が考えるアイデアよりもすごく面白いことがあると思うので、また、いろんな提案をしてくれたらと思います。このSNSができて、世界のどこでもつながるし、誰とでもつながることができるので、青森をどんどん売り出していきたいと思っています。

将来の夢は人文関係ということですが、具体的には何か決まっていますか。

(発言生徒4)

まだはっきり決めてないので、大学に進学をしてからいろいろ探していきたいなと思っています。

(知事)

夢に向かって勉強をがんばってください。

(司会)

それでは今回の意見交換を通して知事から感想をいただきたいと思います。三村知事、よろしくお祈りします。

(知事)

何よりもこれからの地球の課題ということをお話しいただいたこと、SDGsという概念を知っているだけではなくて、実際にどんな問題があるか、プラスチックの問題、環境の問題、そして食料の問題があるということをお話しいただいて、行動を起こさなければダメだよということを我々に突き付けてくれたことをうれしく思います。

それからSNSの話もありましたが、青森って、もっと知ってもらいたいと思っています。台湾ではすごく知られていますが、それ以外の世界各国で、日本でも「青森ってすごくいいところだな」というふうに伝えていきたいと思っています。そのためにまた皆さんのようなアイデアをどんどん出して生かしていけたらいいなと思っています。

今日は皆さんと真剣に未来のことを話し合うことができ、あるいは青森のことを話し合えることができうれしかったです。これからは、皆さんが一番未来にタッチしていくわけだから、皆さんの今後の成長を大いに期待しています。何よりも健康で、それぞれ自分の夢に向かって歩んでください。今日はありがとうございました。

